

今月のピックアップ生薬

2月

展示番号 NO.47 薄荷(ハッカ)

◆使用部分 (つかうところ)

葉や茎などの地上部…葉っぱがとても香ります。

◆産地 (とれるところ)

日本、中国、ブラジルなど…日本では、現在北海道で作られているハッカが国内生産量の9割を占めます。

◆用途 (どんな時に使う?)

胃の調子を調えたり、腸内のガスを出しやすくする。漢方的には、さらに解熱などにも使います。…お腹がゴロゴロするとき、おならを出しやすくするとかしないとか…。それとハーブティ。

◆どんな植物

東アジアの温暖なところ生える多年草のシソ科の植物。代表的なハーブ。日本ハッカと西洋ハッカの2種類が有名ですが、変種が出来やすく500種類以上の仲間があるといわれます。日本ハ



ツカは、小花を玉状に集めて咲かせ、西洋ハッカは穂状に花を咲かせます。

ガムや、ハミガキ製品、お茶など清涼感を出す製品については欠かすことのできない植物です。ただし、その清涼感を出す成分のメントールは、化学合成することで作られることがほとんどで、ハッカから取るメントールは、少量になっています。

◆化学成分： *l*-メントール (*l*-menthol)

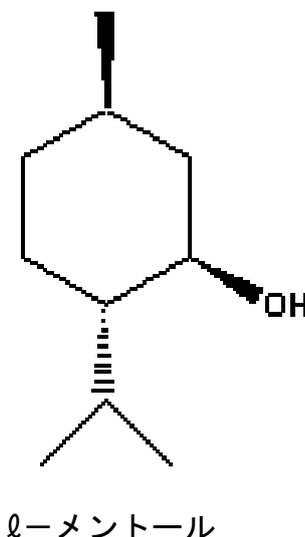
分子式： $C_{10}H_{20}O$

分子量：156.27 g/mol

融点：42～45℃

沸点：212℃

化学合成を行うと、ほぼ同じような形状の*d*-メントールというものとほぼ半々の割合で作られます。*d*型は、ミントの香りとは違う香りがします。2001年にノーベル化学賞を受賞した野依先生が開発した触媒により、ほぼ*l*-メントールだけが作り出せるようになりました。皮ふに触れると、ひんやりとした感覚を起こさせる作用もあります。



来月は、No.43の人参(ニンジン)を取り上げます。

実際の医薬品としての効能などについては、薬剤師や、医師にご相談ください。